

改善プランに沿った、教職員一丸となった取組について



各学校において、子供たちの現状に基づき、改善プランを作成いただいたことと思います。これからは、改善プランを基に、全教職員で授業改善を「一歩先へ！」進めることが大切です。その際の大切なポイントは、「一人も見捨てない」という思いの下、やるべきことが焦点化されているか、取組の成果の把握をいつ、どこで行うのか、そして全教職員でこれらが共有されているかということです。学力向上に向けた自校の取組を推進していきましょう。

学力向上に取り組むに当たって大切なこと

個に応じた指導の充実

「一人も見捨てない」という強い思い

- 前年度までのつまずきが解消できていない児童・生徒
- 本年度の内容につまずきが見られる児童・生徒

取組の焦点化

- Web評価支援システムを活用して、個に対応した復習プリントを用意し、補充学習等で丁寧に指導を行っていく。
- 少人数やT.T.の授業において、個別指導を丁寧に行う。

検証計画

- 改善プラン及び成果検証の「見える化」をする。
- 時期と数値目標の確認をする。
※過去問題等の単元末や定期テストへの活用等
ふりかえりプリント集、到達度確認テスト等も活用し、細かく取組の成果を把握する。

全教職員による共有

全教職員で取り組むために大切なこと

学年	教科	単元	改善策	検証時期	数値目標
小学1年	算数	数のつまずき	個別指導	11月	10%
小学2年	国語	読解力	読書会	11月	20%
小学3年	英語	発音	発音練習	11月	80%
小学4年	数学	計算力	計算ドリル	11月	90%
小学5年	国語	作文力	作文指導	11月	85%
小学6年	算数	図形	図形学習	11月	95%

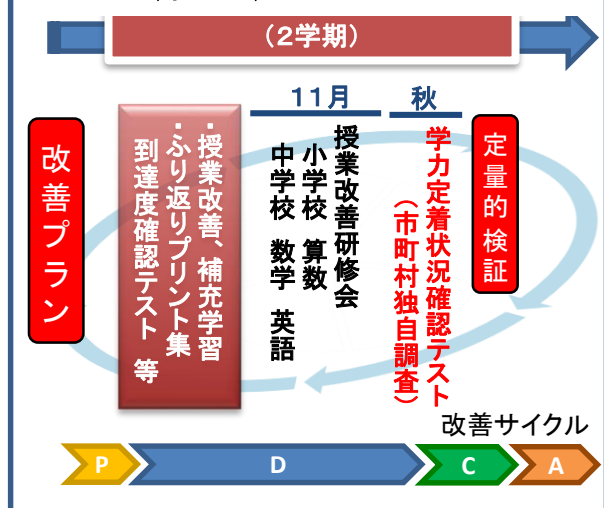
改善プランには、学習状況の改善に向けた視点も示してあるはずなので、学校全体の取組として、推進していきましょう。

今年度、改善プランを作成するに当たっては、各教科の結果分析を踏まえる必要がありましたが、提出したプランに基づいて、いつまでに、何を、どこまで取り組むか、教科を越えて話し合うことができているでしょうか。「一人も見捨てない」ためには、今まで以上にきめ細かな取組が求められます。子供たちの学力向上のため、補充学習や家庭学習に関しても、学年団や教科担当で話し合うことが大切です。

改善プランは、自校の児童生徒の課題を明らかにし、具体的な改善策を共有するための重要な指針です。全教職員が、明確なゴールに向けて、計画的かつ継続的に取組を行うことで、児童生徒のつまずき解消につながっていきます。

学力向上担当者として、管理職とも相談しながら、全校で解消に取り組む仕組みを提案することが求められています。

学力調査等を活用した授業改善・学力向上のRPDCA(イメージ)



2学期は授業を進めるとともに、つまずきの解消を進める期間です。改善プランに示した秋の学力定着状況確認テストの達成目標や取組について、全校で何度も確認することで全校一丸となつての取組を進めましょう。

